

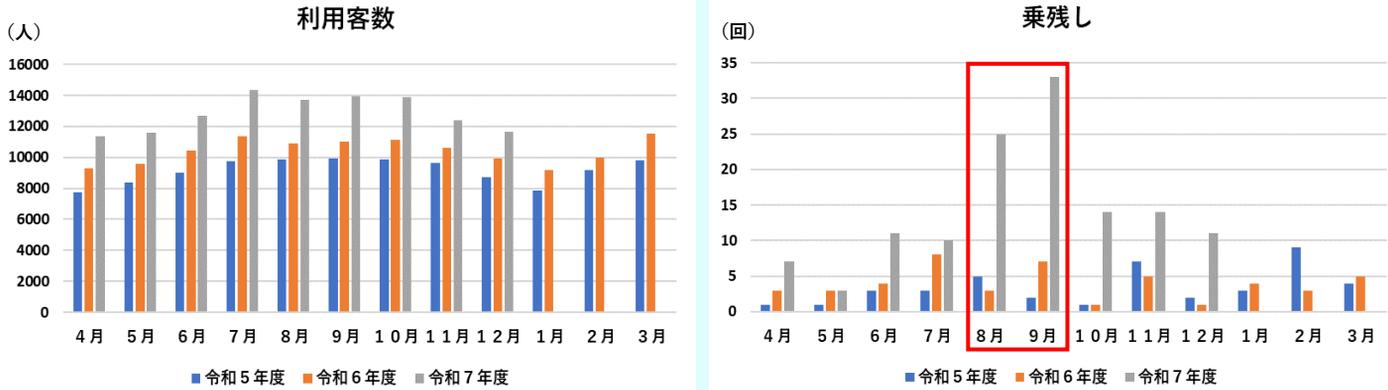
令和7年度 市内循環ワゴン乗残し実績

1. コース・ダイヤ見直し以降の乗残し

✓利用客数の増加に伴い、乗残しも増加傾向にある。

✓令和5年度および令和6年度における乗残し回数の平均は44回であったが、令和7年度には12月時点で129回に達しており、過去年度の平均を大きく上回っている。

年間利用者数及び乗残しの変化(令和5～7年度の比較)



→ 大手物流企業 稼働

2. 乗残し増加の主な要因

●大手物流企業の大規模採用

→令和7年8月頃、国道254バイパス沿いに建設された大型物流倉庫に大手物流企業が入り、大規模な採用が行われたことにより、当該施設最寄りの停留所「水宮」および「福岡新田」の利用者数が令和6年度と比較して2倍以上増加している。

→倉庫内で働く社員及び派遣社員の方々が利用する無料の送迎バスがあるが、派遣社員の方に十分な周知がされておらず、その代替えとして市内循環ワゴンが通勤に利用されたことから乗残しが増加したと思われる。この影響は交通結節点である「上福岡駅東口」や「ふじみ野駅東口」、さらに最寄り停留所に近接する「上福岡総合病院前」停留所において顕著に現れている。(表1参照)

乗残しの発生回数

表1

	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (4月～12月)
上福岡駅東口	1回	2回	16回
ふじみ野駅東口	0回	1回	9回
上福岡総合病院前	0回	0回	11回

→乗残しは、8月・9月をピークに発生しており、AコースおよびBコースにおいて、出勤・退勤時間帯を中心に乗残しが増加し、始発停留所である「上福岡駅東口」、「ふじみ野駅東口」で乗残しが発生すると、他の停留所にも影響して乗残しが発生している。

●年々増加する猛暑日

さいたま市の猛暑日(年間日数) = 令和5年:35日 令和6年:42日 令和7年:45日

→夏場の暑さの影響から、歩行からワゴンへ行動が変化して、利用者が増えているものと想定される。

→ 乗り残しについては、引続き予備車による対応を継続しながら、発生状況を注視する。